

グラフ・資料統合 No.3(職場体験の行き先) **L1 標準**

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)	目標時間:18分	満点:100点(自己採点)
--------------------------	----------	---------------

次の英文は、ケン(Ken)が職場体験(work experience program)についてまとめたレポートです。[表]とあわせて読んで、あとの各問に答えなさい。表の(X)に入る数は、本文から考えます。(A)～(D)は問3で使う印です。

- ① Last month, the forty students of our class joined the work experience program for three days. We worked at five different places in our town. The table shows how many students chose each place.
- ② The nursery school was the most popular place. Twelve students went there. Many of them said, “I have a little brother or sister, so I wanted to learn how to take care of small children.” The supermarket was the second most popular. The fire station was more popular than the animal hospital, but less popular than the city library. **A**

[表]職場体験の行き先と人数(2組・40人)				
保育園	スーパーマーケット	市立図書館	消防署	動物病院
12人	10人	8人	(X)人	4人

- ③ Every place gave us a different lesson, but I found one thing that was the same everywhere. Before the program, I thought that working means(①). But it does not. At the supermarket, the workers checked the vegetables many times and put them in neat lines. At the fire station, the team cleaned and checked their machines again and again — for the fire that may never come. **B**
- ④ I worked at the city library. My job was to return books to the shelves. At first, it looked easy. But each book has its own address, and if I put a book in a wrong place, no one can find it. The librarian told me, “A library without order is just a mountain of books.” I will never forget these words. **C**
- ⑤ Three days were short, but they changed how I see my town. Now, when I walk by the fire station or the supermarket, I see the quiet, careful work behind them. **D** Someday, I want to be a person who does such work — work that no one may notice, but everyone needs.

[注] work experience program 職場体験 / nursery school 保育園 / fire station 消防署 / neat きちんとした / shelf / shelves たな / order 順序・整理 / notice ～に気づく

グラフ・資料統合 No.3(職場体験の行き先) **L1 標準**

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) [表]の(X)に入る数として正しいものはどれか。 ア 9 イ 7 ウ 6 エ 5	()
問2(15点) 本文の(①)に入る最も適切なものはどれか。 ア doing big, exciting things イ getting a lot of money ウ helping only children エ working alone at night	()
問3(15点) 次の英文を本文中の(A)～(D)のどこかに入れるとき、最も適切な場所はどれか。 Work like this does not make news, but it keeps our town safe and clean.(このような仕事はニュースにはならないが、私たちの町を安全できれいに保っている。) ア (A) イ (B) ウ (C) エ (D)	()
問4(15点) 下線部 these words(第④段落)が指す言葉として最も適切なものはどれか。 ア「本にはそれぞれの住所がある」 イ「整理のない図書館は、ただの本の山だ」 ウ「3日間は短かった」 エ「はじめは簡単に見えた」	()
問5(20点) 本文と[表]の内容と合っているものはどれか。 ア 動物病院に行った生徒の数は、保育園の半分である。 イ ケンはスーパーマーケットで職場体験をした。 ウ 保育園を選んだ理由として、弟や妹の世話を学びたいという声があった。 エ 職場体験は1週間おこなわれた。	()
問6(20点) このレポートの主題として最も適切なものはどれか。 ア 消防署の1日の仕事の流れ イ 誰も気づかないが、みんなに必要とされる仕事の価値 ウ 職場体験の行き先の決め方 エ 図書館で本をさがす方法	()

とき終わったら

かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえ

た問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
ウ	ア	イ	イ	ウ	イ	/ 100

問1 正解 **ウ**(15点) | (X)は「大小関係」と「合計」ではさみうちにする

根拠 第②段落より、消防署は「動物病院(4人)より多く、市立図書館(8人)より少ない」→ 5～7人。さらに合計40人から、 $40-(12+10+8+4)=6$ 。大小関係と合計、両方の条件を満たすのは6だけ。

誤答の切り方

ア	9だと図書館(8人)より多くなり、「図書館より少ない」に反する。
イ	7は大小関係には合うが、合計が41人になってしまう。
ウ	6は「4より多く8より少ない」も「合計40」も両方満たす。
エ	5も大小関係には合うが、合計が39人で1人足りない。

 **この形式のコツ** 資料問題の最終形＝2つの条件のはさみうち。①比較の文(more ~ than / less ~ than)で範囲を絞る ②合計の引き算で1つに決める。片方だけだと複数残る——2つ目の条件を必ず探しに行く。

問2 正解 **ア**(15点) | But it does not. の前後は「思いこみ→現実」の対比

根拠 空所は「以前の思いこみ」。直後で But it does not.(でもそうではない)と否定され、続く現実の例は「野菜を何度も確かめる」「来ないかもしれない火事のために何度も点検する」——地味で静かな仕事。その反対の思いこみ＝「大きくてかっこいいことをすること」。

誤答の切り方

ア	「大きくて刺激的なこと」——直後の「静かで注意深い仕事」の例と正反対になり、対比が成立する。
イ	お金の話は本文のどこにもない。
ウ	「子どもだけを助ける」——保育園の話に引っぱられるワナ。段落③のテーマは全部の職場の共通点。
エ	「夜にひとりで働く」——夜の話はない。

 **この形式のコツ** I thought ~. But ...(～だと思っていた。でも…)の形では、空所に入るのはあとで否定される内容。直後の現実の例を先に読み、その「逆」を選ぶ。

問3 正解 イ(15点) | Work like this の this は「直前の仕事の例」を指す

根拠 挿入文の Work like this(このような仕事)が指せるのは、第③段落の「野菜を何度も確かめる・機械を何度も点検する」という具体例。(B)に置くと、例→まとめ(ニュースにはならないが町を守る)の流れが完成する。

誤答の切り方

ア	(A)第②段落は人数と人気の話。仕事の中身の例はまだ出ていない。
イ	(B)2つの職場の「静かな仕事」の例の直後——like this の中身がそう唯一の場所。
ウ	(C)第④段落は図書館での自分の体験談。this が指すには例が1つで、safe and clean(町の安全)ともずれる。
エ	(D)最終段落にも似た内容があるが、(D)に入れると直後の「私もそんな仕事がしたい」と重複してくどくなる。直前の例を受けられる(B)が先。

🔑 この形式のコツ 挿入文の like this / such ~ は「直前に具体例のリスト」が必要。例が2つ以上並んだ直後が置き場所の第一候補——「例→まとめ」の順は英語の説明の基本形。

問4 正解 イ(15点) | these words は「直前のかぎかっこ」を指す

根拠 these words(この言葉)の直前にあるのは、司書のせりふ “A library without order is just a mountain of books.”。「この言葉を忘れない」=司書の言葉を忘れない。引用符(“ ”)が最大の目印。

誤答の切り方

ア	「住所がある」はケン自身の説明で、せりふではない。words(誰かの言葉)が指すのは引用符の中。
イ	直前の司書のせりふそのまま。
ウ	「3日間は短かった」は次の段落のケンの感想。位置が後ろにある。
エ	「簡単に見えた」もケンの感想で、忘れられない「言葉」ではない。

🔑 この形式のコツ these words / the words を見たら、直前の引用符(“ ”)を探す——「言葉」が指すのは、地の文ではなく誰かが実際に言ったせりふ。物語文でも頻出の型。

問5 正解 ウ(20点) | 内容一致は「数字→事実」の順に照合する

根拠 第②段落 “I have a little brother or sister, so I wanted to learn how to take care of small children.” と一致。理由の引用がそのまま根拠になる。

誤答の切り方

ア	保育園12人の半分は6人。動物病院は4人なので、計算で切れる(半分以上は消防署の6人)。
イ	ケンの職場は市立図書館(第④段落)。
ウ	第②段落の引用と一致。最も直接的な根拠がある。
エ	3日間(第①段落)。期間のすり替え。

🔑 この形式のコツ 数字の選択肢(半分・2倍・～より多い)は表で計算→言葉の選択肢は本文と照合、の2段構え。数字のワナは「近い別の項目」(ここでは消防署の6人)で作られる——どの項目の話かまで確かめる。

問6 正解 イ(20点) | レポートの主題は「体験→変化→将来」の変化の部分

根拠 最終段落 work that no one may notice, but everyone needs(誰も気づかないかもしれないが、みんなが必要とする仕事)がそのまま主題。③共通点の発見 ④司書の言葉 ⑤町の見え方の変化——全部がこの一点に向かっている。

誤答の切り方

ア	消防署は例の1つ。1日の流れの説明はない。
イ	最終文そのまま+全段落をおおう傘。
ウ	決め方の説明はない。表は結果を示すだけ。
エ	本のさがし方は第④段落の一部。骨の1本。

🔑 この形式のコツ 体験レポートの主題は「何をしたか」ではなく「体験して何が変わったか」。before(思いこみ)と after(今の見え方)が対になっている文章では、after 側の一文が主題になる。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

①	導入＝40人が5か所で3日間の職場体験。表は行き先の人数
②	人気＝保育園12人がトップ。消防署は動物病院より多く図書館より少ない
③	発見＝どの仕事も「静かで注意深い」(野菜の確認・来ない火事への点検)
④	体験＝図書館で本を棚へ。「整理のない図書館はただの本の山」
⑤	変化＝町の見え方が変わった。「誰も気づかないが、みんなに必要な仕事」へのあこがれ

もう一段のぼる 資料統合3枚で「(X)を求める型」は全部そろった——①本文の数字の引き算 ②「2倍」からの計算 ③大小と合計のはさみうち。次は対話文タイプで「流れに合う文を選ぶ」技術へ。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・キャリア教育(職場体験の前後)との相性が抜群(本文約340語+表。計30分)。問5は「2つ正しく見える」ときの優先順位を教える珍しい問題——解説の音読推奨。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。